

2006年度雪氷防災研究講演会

—平成18年豪雪災害とその闘いから学ぶこと—

防災科研は、平成18年10月31日（火）福井県勝山市において、2006年度雪氷防災研究講演会を開催しました。

講演と討論の二部形式で行い、第一部では、家屋損壊や雪処理中の事故による高齢者被害の多発など今豪雪被害の特徴が報告されました。その中には、支援対策があっても豪雪時には十分に機能しないことがあることや、不在家屋の雪処理など行政に関わる問題提起なども行われました。また、当研究所からは、現在研究を進めている雪氷災害のうち雪崩予測と道路雪氷予測について、豪雪時の具体的適用事例もまじえて二題の発表を行いました。

第二部では屋根雪問題について雪氷

防災研究センターの取り組みを紹介した報告などの後、参加者全員での討論を行いました。同じ雪国でも寒さの違いによって、問題も処理手法も違うという、問題の複雑さも改めて明らかになりました。

福井県の豪雪被害が大きかったことから関心が高く、県内外から111名の参加者があり熱心な聴講と討論が行われました。



講演会会場

シンポジウム

「平成18年豪雪を振り返る」

平成18年9月30日（土）に、表記シンポジウムを、平成18年豪雪で全国的にも注目を集めた津南町の文化センターで、同町や十日町市、新潟県十日町地域振興局などの協力を得て開催しました。

同町や振興局からは今豪雪に対する取り組みや課題などが、また当研究所や土木研究所雪崩・地すべり研究センター、新潟大学、長岡技術科学大学などの研究者からは、今冬の降積雪や雪



国道405号線の現地視察

崩災害の特徴や現地を対象とした対策技術の研究の現状などが紹介されました。通行止めが続いた国道405号線の地元でもあり関心が高く、地元の方を含め全国から114名の参加者がいました。なお、前日には、405号線の現地視察も行いました。

プログラム等詳細はhttp://www.bosai.go.jp/research/snow_sokuhou.html

インドネシア国クスマヤント大臣がE-ディフェンスをご視察

平成19年1月16日(火)、インドネシ



左より、ユドホ中小企業担当部門長、阿部文科省防災科学技術推進室長、小島科学技術政策アドバイザー、岡田理事長、クスマヤント大臣、渡辺文科省国際交流推進官、阿部兵庫耐震工学研究センター長代理

ア研究技術担当大臣 クスマヤント・カディマン氏が、兵庫耐震工学研究センター（E-ディフェンス）をご視察されました。

2時間半余り、じっくりとご視察していただいた後に、“I admire the facility in NIED, especially the E-Defence. This is another example on that technology plays an important role in protecting life from disaster” というメッセージをいただきました。

大都市大震災軽減化特別プロジェクト 総括シンポジウム

防災科研は、文部科学省、東京大学地震研究所、京都大学防災研究所、国際レスキューシステム研究機構と共催で、平成18年12月21日、22日、「東京国際フォーラム」および「明治安田生命ビル 丸の内 MY PLAZA」にて「大都市大震災軽減化特別プロジェクト（通称：大大特）・総括シンポジウム」を開催しました。シンポジウムには様々な機関や業種から約900名の方にご参加いただきました。

「大大特」は、文部科学省が、首都圏や京阪神などの大都市圏において、大地震が発生した際の人的・物的被害を大幅に軽減するための科学的・技術基盤を確立することを目的として平成14年

度より5年計画で進めてきたプロジェクトです。①地震動（強い揺れ）の予測、②耐震性の飛躍的向上、③被災者救助等の災害対応戦略の最適化、④耐震研究の地震防災対策への反映の4つのテーマから構成され、約1000名の理学・工学・社会科学の研究者が総力を挙げて取り組んできました。

総括シンポジウムにおける様々な議論や意見交換は本プロジェクトの成果の取りまとめや、今後の研究成果の普及活動に生かしてゆく所存です。

今後とも皆様方のご指導、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

編集・発行／  独立行政法人 防災科学技術研究所

〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1 ☎029-851-1611(代)

広報普及課直通☎029-863-7783 Fax.029-851-1622

E-mail◆toiawase@bosai.go.jp ホームページ◆<http://www.bosai.go.jp>

発行日／2007.3.19